

薙刀 九州筑後ニテ下坂八郎左衛門作／慶長八年八月吉日 樋口越前守持料

法量 刃長 486mm 反り 25.0mm 元幅 24.5(26.0)mm 重ね 7.7mm 鎗重 8.4mm

形状 薙刀造り、中筋の広い真棟。彫、表裏とも薙刀樋と添樋。

鍛 板目に歪交じり、地沸ついて肌立ちどころとなり、鎗地は流れ杵。

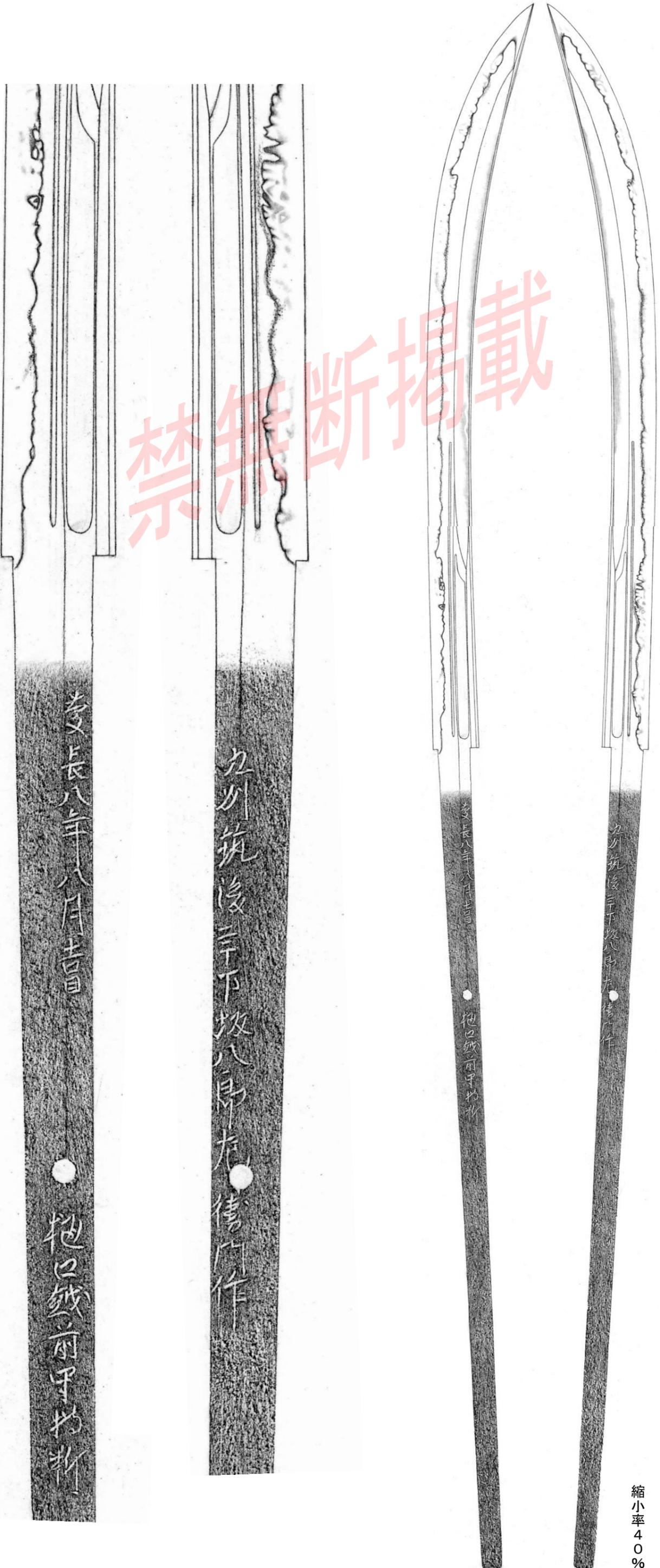
刃文 浅い湾れ調に互の目を交え、足、葉入り、中程に斑沸つき、棟を弱く焼く。

帽子 乱れ込み、先小丸風に返る。

茎 生ぶ、目釘孔まで鎗筋通り、以下平地となる、棟、刃方とも角、先栗尻。鑓目目釘孔までは急角度の鷹羽、以下はそのまま檜垣となる。

下坂氏は浅井家に仕えていたが、浅井長政が信長に滅ぼされたのちは鑓鍛冶に転向し、長曾祢鍛冶ともども石田三成の領地、東近江で活動していた。そのため関ヶ原敗戦後は結城秀康を頼り、揃って越前へと移っているが、一人八郎左衛門だけは筑後の田中吉政（近江出身）に二百石で抱えられている。なお、三成から結城秀康には、七将襲撃の際に護衛してもらった礼物として「石田正宗」が贈られており、田中吉政には関ヶ原後に捕縛されたときのもてなしに対し「石田貞宗（切刃貞宗）」が贈られているので、あらぬ想像を巡らせれば、名刀とともに後事を委ねていたのではないだろうか。 第28回重要刀剣。

縮小率40%



九州筑後ニテ下坂八郎左衛門作

慶長八年八月吉日 樋口越前守持料